

皮膚科初期研修カリキュラム
カリキュラム責任者：小林 あい子

<一般目標 GIO: General Instructional Objective>

皮膚科疾患についての基本的な知識や技術を身につけ、全身疾患との関連性を理解し、さまざまな医療の状況において、これらの知識や技術を実践できる能力の習得を目標とする。

<行動目標 SBO: Specific Behavioral Objective>

1. 皮膚発疹学を習得する。
 - ①発疹学について記載皮膚科学上必要な用語を熟知し、原発疹、続発疹、そのほかの皮膚病変について正確な記載ができるようにする。
 - ②発疹の分布、配列、特徴について正確に記載できるように習熟する。

2. 皮膚疾患診断のために行われる皮膚科特有の検査の意義、目的、方法について理解し、主要な所見を指摘できる。
 - ①菌直接鏡検、硝子圧診、皮膚描記法、知覚検査、ニコルスキー現象、ケブネル現象、アウスピッツ現象、針反応など日常の理学的検査法を熟知し実施する。
 - ②パッチテスト、プリックテスト、スクラッチテスト、即時型皮内反応、DLST、I g E R I S T、I g E R A S T、遅延型皮膚反応などの免疫・アレルギー検査法の意味と実施方法、判定について熟知し実施する。
 - ③病理組織検査法の適応、方法、患者への説明、同意について理解し、実施できる。

3. 代表的な皮膚疾患についてその病態と治療法を理解する。
 - ①湿疹皮膚炎群
 - ②蕁麻疹、痒疹、紅斑症、薬疹、紅皮症
 - ③水疱症、膿疱症
 - ④角化症、炎症性角化症
 - ⑤真皮、皮下脂肪織の疾患
 - ⑥皮膚付属器の疾患
 - ⑦膠原病及びその類症
 - ⑧細菌、真菌、ウイルス感染症、寄生虫、動物が関与する疾患
 - ⑨皮膚腫瘍

4. 皮膚科治療法の基本的事項を理解し実施できる。

- ①様々な抗ヒスタミン剤の種類、特徴、効果、副作用などについて理解し、実施できる。
- ②抗菌剤の全身投与の適応とその用法について習熟する。
- ③副腎皮質ホルモン剤の全身投与の適応、用法、副作用について理解し実施できる。
- ④外用剤の基剤、主剤について理解し、外用剤のさまざまな外用方法について実施できる。
- ⑤副腎皮質ステロイド外用剤の種類、用法について理解し、実施できる。
- ⑥抗真菌剤、保湿剤などの外用剤についてその適応と用法を理解する。
- ⑦液体窒素による凍結療法の適応と手技について理解する。
- ⑧局所麻酔法、切開法、切除法、縫合法を熟知し、指導医のもとで感染性粉瘤、皮下膿瘍などの切開排膿、皮膚腫瘍の切除、縫合を経験し、習熟する。
- ⑨熱傷の重症度判定とその治療法について熟知し、局所処置を実施できる。

<方略 LS: Learning Strategies >

- ①毎週月曜日午後は手術室にて助手として手術の介助、表皮縫合などの手技を行う。
- ②術後創部の観察、抜糸、抜糸後の創部のテープ固定指導を行う。
- ③切除標本の病理組織所見を確認し、臨床像との比較を行う。
- ④手術日以外は外来診療に携わり、初診患者については予診をとって、鑑別診断を列挙し、必要な検査については自ら行う。その後指導医の診察を見学し、自身の診断の正否を確認し、治療法を含めて自習する。
- ⑤褥瘡回診に同行し、指導医やWOC看護師、栄養管理士、病棟看護師、作業療法士によるチーム医療を通して、褥瘡の成因、評価方法、薬剤選択、発症予防について学習する。
- ⑥病棟にて受け持ち医として指導医とともに入院患者を担当し、治療計画の立案、診察、カルテ記載、検査・処方・処置・手術などのオーダーを行う。
- ⑦局所麻酔下での皮膚生検、切開排膿などの外来処置の手技を学び、実践する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:45 -9:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	
午前	外来診察 処置 検査	外来診察 処置 検査	外来診察 処置 検査	外来診察 処置 検査	外来診察 処置 検査	
午後	外来手術 病棟診察	検査 病棟診察	検査 病棟診察	検査 褥瘡回診 病棟診察	検査 症例検討 カンファ レンス 病棟診察	

<研修評価 EV: Evaluation>

- ①研修医手帳を活用し、症例を記入して研修形成過程におけるフィードバックを目的とする形成的評価を行う。
- ②PG-EPOC やレポートを用いて自己評価を行う。
- ③指導医は行動目標、方略に示した日常診療での知識、技能、態度に基づき評価を行う。